



第 2 号

平成 25 年 12 月 13 日  
岩手県長寿社会課

達増知事、地域包括ケアの現場に感服！

## 矢巾町地域包括支援センターの巻

去る 11 月 22 日、達増知事は、地域包括ケアに先進的に取り組む矢巾町地域包括支援センターを現地視察しました。

矢巾町は、国の「市町村認知症施策総合推進事業」を活用し、**認知症施策を中心とした地域包括ケアシステムの構築**に積極的に取り組んでいます。「やさしさはばたく認知症支援」は、今まさに離陸したところです。

### 矢巾町地域包括支援センターの概要

矢巾町全域の医療や福祉の向上に取り組む地域包括支援センター（吉田均所長）。町内の社会福祉法人敬愛会に委託。平成 25 年 4 月、矢幅駅前が開業した医療福祉多機能ビル「ケアセンター南昌」(写真)に移転し、医療と介護の連携体制を強化しつつある。

吉田所長を中心に、町内の福祉関係者で構成する「劇団おたすけ」による認知症寸劇の公演、「わんわんパトロール隊」の結成（4面に紹介記事）など、県内でも有数の活動実績を誇る。



### 認知症施策に積極的に取り組む矢巾町

達増知事の現地視察は、11 月 22 日（金）夕方 4 時過ぎから、ケアセンター南昌内で始まりました。

最初に、川村勝弘矢巾町生きがい推進課長から、矢巾町の地域包括ケアシステムの構築について、取組状況の説明がありました。

人口 26,773 人の矢巾町では、高齢化率は 21.5%と低い水準にありますが、高齢者の増加とともに、認知症に関する相談や要介護認定申請が増えており、町民の認知症への関心も高いとのことでした。

町では、平成 24 年度から「市町村認知症施策総合推進事業」を導入しました。これを機に、保健、医療、福祉等の専門機関や住民組織、民間企業等でのネットワーク連絡会を立ち上げ、認知症の方や家族への支援に重点的に取り組んでいるとのことでした。



## 地域包括支援センター、がんばる

町の説明に続き、地域包括支援センターの吉田所長（写真）から、具体的なお話を聞くことができました。

24年度の年間相談件数は約2,300件で、入退院の支援や医療との連携、低所得者の生活維持などについての相談が増えているそうです。

地域ケア会議は、24年度には43回開催。認知症やひとり暮らし、精神的な病を抱えるケースなど、支援困難事例を中心に個別検討を重ねています。このほか、ケアマネや介護保険事業所、グループホームとの連携にも気を配り、連絡会の中で研修や事例検討を毎月実施するなど、とてもパワフルな活動ぶりです。

今年度は、民生委員が加わった事例検討会を初めて開催。今後、「やはば型地域包括システム」の推進基地として、**ケアセンターの立地を生かし、医療と介護の連携や介護予防、在宅医療にも積極的に取り組みたい**、とのお話でした。



## 「やさしさはばたく認知症支援ネットワーク連絡会」

続いて、矢巾町の認知症地域支援推進員、鱒沢陽香さん（写真）からの説明がありました。

平成24年10月から、町内の関係機関の協力を得て「**やさしさはばたく認知症支援ネットワーク連絡会**」を結成。4つの部会を置いて取組を進めています。認知症施策では、岩手県内でも数少ない「**おらたち、熱いよね**」と言える地域の一つです。



### ① 医療連携・認知症ケア検討部会

多職種協働による事例検討会や研修会を主に担当しています。いま、認知症ケアパスの「矢巾モデル」の検討が本格化しています。

### ② わが町つながる部会

認知症の正しい知識を広げるため、「やさしさはばたくオレンジガイド」の作成や、キャラバン・メイト連絡会、相談会などを主に担当しています。

### ③ 安心安全おたすけ部会

もともと警察・消防関係者中心だったものを、町内の関係者と連携し、「徘徊・見守りSOSネットワーク」を広げる取組を主に担当しています。

### ④ 認知症支援開発部会

「介護者のつどい」や「男の介護塾」の開催など、新しい支援の形を模索しています。注目は、町内の犬好きの住民主導で、犬の散歩の際に地域の見守りを合わせて行う「矢巾わんわんパトロール隊」の結成です。

最後に、吉田所長は「認知症を切り口にして地域包括ケアシステムを構築していく。介護予防にも力を入れる。その中核として、ケアセンターの機能を生かし町全体に取組を広げていきたい」と、今後の決意を**熱く**語っていました。

## 知事、施設を見学

ひととおり説明が終わった後は、「ケアセンター南昌」内を見学。知事は、各施設の職員や利用者の方からお話を聴いたり話しかけたりしながら、地域包括ケアの現状について、現場の様子を一つ一つ見て回りました。



## ケアセンター南昌 配置図

6階	屋上園庭
5階	世代間交流センター 大浴室 グループホーム敬寿荘
4階	介護老人保健施設博愛荘 ショートステイやはば
3階	介護老人保健施設博愛荘
2階	博愛荘デイケアセンター こずかた保育園 デイサービスつむぎ リハビリホール
1階	矢巾町地域包括支援センター やはば指定居宅支援事業所 訪問系サービス事業所 こずかた診療所

施設見学後、知事は、「矢巾町では、認知症になっても地域で安心して暮らし続けることができる仕組みづくりを、町を挙げて進めていることをあらためて知った。認知症施策をきっかけに、医療、介護や生活支援の関係者が連携し、地域住民や関係機関とのネットワークを構築する取組はとて素晴らしい」と、矢巾町の取組を評価していました。

また、ケアセンター南昌については、「各施設の特長を生かし、医療、保健、介護及び児童福祉の多岐にわたるサービスを一体的に提供する県内初の取組。地域包括ケアシステムのモデルとしても期待される」と、新施設への期待を述べ、「県としても地域包括ケアシステムが全市町村で構築されるよう後押しし、矢巾町のような先進的モデルについても積極的に情報発信していきたい」と、今後の取組の方向性について語り、施設を後にしました。





☆矢巾町の認知症に関する取組の中から、特色あるものを紹介します☆

### 劇団おたすけ



吉田所長を団長とし、町内の福祉関係者で構成する劇団で、平成 15 年 11 月に結成されました（団長は認知症の「ノブさん」の息子の嫁役として、**名演技**を魅せています）。認知症の人への対応を寸劇でわかりやすく発信し、今年7月には**公演 100 回目**を達成。

看板の「**ノブさん**」シリーズは特に人気が高く、記念公演「ノブさん町にでる」では、認知症のノブさんが一人でバスに乗り、町の食堂でご飯を食べ、やっとこさ家に戻るまでの間に、周囲の人と繰り広げるちぐはぐなやりとりを、ユーモラスに演じていました。

### 矢巾わんわんパトロール隊



犬の散歩に合わせて、地域の防犯や見守りを行うボランティアグループとして、平成 25 年 4 月に結成されました。

現在、**隊員は 15 人とその愛犬 16 匹**に増えました。犬専用の反射材プレートが、隊員の目印です。普段の暮らしの中で、無理なく続けられるようにしつつ、順調に取組を広げています。

今のところ、隊員が認知症の人を保護した事例はまだないようですが、“平和で何事もないことが一番。地域の人がいつでも見守ってくれることが地域の財産”との思いで「パトロール」しているとのこと。

### 取材を終えて・・・

地域包括ケアは人と人によって形づくられ、支えられていることをあらためて感じる事ができた視察でした。

認知症への取組をきっかけに、住民や関係者が集まって話し合った、取り組んだ、そして振り返ったら道（ネットワーク）ができていた。そして、これからも続いていく。

住民皆さんの手による取組も多彩だ。認知症サポーター、わんわんパトロール隊、劇団おたすけ・・・協議会（部会）ではまだまだ取組が用意されているらしい。きっと、これからもみんなの“出番”が待っているに違いない。

地域包括ケアは、地域づくり。安心して暮らし続けることができる地域をつくりたいという思いが“みんなの出番”と相まって形づくられていると感じました。

また、ケアセンター南昌の施設を見学して感じたのは、程よく相手を感じさせる工夫がなされていること。例えば、通所リハビリ施設が保育園と同じ階にありますが、壁ではなくガラスで仕切られています。リハビリに来た方が、ガラス越しに保育園の園児に手を振ると、園児も笑顔で手を振って返す。「子供たちも元気になっているから私も頑張ろう」と気持ちを新たにしているとのこと。とても励みになりますね。

ケアセンター南昌の屋上園庭から眺めた景色・・・西に南昌山、北に岩手山、東に早池峰山。ふるさと感じながら、やさしさはばたく矢巾の未来が思い起こされました。

（なんでも取材班 「よ」）

「**ちいきで包む**」は、岩手県内市町村の地域包括ケアシステム構築をアシストするため、各地の特色ある取組や、関係する情報を発信する情報紙です。

企画・発行（問合せ先）

岩手県保健福祉部長寿社会課（本号担当：吉原・藤原） 平成 25 年 12 月 13 日発行

TEL:019-629-5432 FAX:019-629-5439 E-mail:AD0005@pref.iwate.jp